

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-81	高等学校	公民科	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183・第一	倫理 183-901	高等学校 改訂版 倫理		

<p>1. 編修の基本方針</p> <p>本書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。</p> <p>①先哲の思想を手がかりとして、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせて、自らの人生観、倫理観、世界観を確立していくことができるようにした。</p> <p>②本文の各項には学習のめあてとなる小見出しの問い、学習の手がかりとなる側注の身近な問いなどさまざまな問いを設け、主体的に学習に取り組むことができるようにした。</p> <p>③先哲との対話という意味で先哲の思想に関する原典資料を積極的に掲載し、問いを設けて先哲の考えを理解する手がかりを示した。</p> <p>④幅広い知識と教養を身につけることができるよう、本文は難解な表現を避け、わかりにくい内容には注を付して内容を補うようにした。また、先哲の略伝、図・表・写真などを効果的に活用して、さまざまな角度から考えることができるよう配慮している。</p> <p>⑤倫理の学習に多面的に取り組むことができるよう「CLOSE UP」と「VIEW」という特集ページを用意した。</p> <p>⑥対話の手法を重視して、巻頭に哲学的対話に関する「CLOSE UP」を設け、本文の各項に生徒と先生との間で、あるいは生徒どうしでできる「対話」というコーナーを設けた。</p> <p>⑦第2編の現代の諸課題と倫理では、現代に生きる私たちが直面するさまざまな倫理的課題を主体的に考えていくことができるよう、見開きごとに「課題を探究しよう!」というコーナーを設け、学習のまとめとして、自分で考えたことをまとめたり、話し合ったりすることができるようにした。</p>
--

2. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
「倫理」を学ぶ君たちに CLOSE UP「倫理」に 登場する用語	「「倫理」を学ぶ君たちに」では、倫理を学ぶ意味を述べ、真理を求める態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第1号・第5号)。 「CLOSE UP 「倫理」に登場する用語」では正義を取り上げ、「公正・公平」という意味を学べるようにし、正義を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。	③ p. 6
第1編 第1章 人間の心と自己 形成	人間とは何かを取り上げ、人間が知恵をいかして社会生活を営むことを学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるよう留意した(第1号)。 青年期の発達課題を取り上げ、アイデンティティの確立や道徳の発達について考察することにより、自主及び自律の精神を養うことができるよう留意した(第2号)。 他者とのかかわりのなかで人間の心がどのようにかはたらくかを学ぶことにより、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。	p. 8~9 p. 10~11 p. 12~21
第2章 人間の存在や価値と宗教	ソクラテスの「魂への配慮」やプラトンの「魂と国家」、アリストテレスの「徳の倫理」を学ぶことにより、道徳心を培うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこ	p. 26~27、30 ~31、33~34

	<p>とができるよう留意した（第1号・第3号）。</p> <p>ユダヤ教とそれを母体として生まれたキリスト教の教えを丁寧に記述することにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第5号）。</p> <p>イスラームの教えとともに、現代のイスラームの動向を丁寧に記述することにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第5号）。</p> <p>仏教の説く「一切衆生悉有仏性」の教えを学ぶことにより、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した（第4号）。</p> <p>宗教の多様性を学ぶことにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第5号）。</p>	<p>p. 38～45</p> <p>p. 48～51</p> <p>p. 59</p> <p>p. 70～71</p>
<p>第3章 人間のあり方と 社会</p>	<p>ルネサンス・宗教改革およびモラリストの思想を学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、個人の価値を尊重する態度を養うことができるよう留意した（第1号・第2号）。</p> <p>経験論と合理論の思想を学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるよう留意した（第1号）。</p> <p>社会は自由で平等な個人の契約によってつくられたものとするホッブズ・ロック・ルソーの思想や、啓蒙思想と現代の民主社会とのつながりを学ぶことにより、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>カントの思想を学ぶことにより、真理を求める態度を養い、道徳心を培うことができるよう留意した（第1号）。</p> <p>「公平な観察者」の「同感（共感）」を重視したアダム・スミスや功利主義のベンサムとミルの思想を学ぶことにより、道徳心を培うとともに、個人の価値を尊重する態度や、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第1号・第2号・第3号）。</p> <p>よく生きるために主体性を強調したヤスパースやサルトル、ボーヴォワールらの実存主義の思想を学ぶことにより、責任や男女の平等を重んじるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p>	<p>p. 74～81</p> <p>p. 84～87</p> <p>p. 88～92</p> <p>p. 94～97</p> <p>p. 102～105</p> <p>p. 112～117</p>
<p>第4章 現代の人間と社会をとらえる思想</p>	<p>コミュニケーション的行為を通じて合意と公共性の形成をはかることをめざしたハーバーマスの思想や、公共的に他と交わり活動することが自由な行為に値すると主張するアーレントの思想を学ぶことにより、「公共」とは何かを考察し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>ロールズやセン、ノージックやマッキンタイア、ギリガンの思想を学ぶことにより、個人と公共性の関係について考察し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>実践された倫理を貫いたシュヴァイツァー、ガンディー、マザー・テレサ、キング牧師の生き方を学ぶことにより、道徳心を培うとともに、生命を尊ぶ態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第1号・第3号・第4号）。</p>	<p>p. 125、130</p> <p>p. 132～134</p> <p>p. 138～141</p>

<p>第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚</p>	<p>日本人にみられる自然観、神観念、倫理観について具体的事例を取り上げ、我が国の伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した（第5号）。</p> <p>外来思想であった仏教が、日本仏教として発展していくようすを丁寧に記述し、幅広い知識と教養を身につけ、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第1号・第5号）。</p> <p>日本人の美意識や芸道を取り上げ、日本の伝統的な思想や文化に対する理解を深めることにより、日本人としての自覚を持ち、他国の文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第5号）。</p> <p>江戸時代における日本儒学の展開について丁寧に記述し、儒教的な考え方が日本人の倫理意識の形成にどのような影響を与えたかを考察させることにより、幅広い知識と教養を身につけ、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第1号・第5号）</p> <p>近代日本において滅私奉公の思想が重視されたことに気づかせ、思想・信条の自由や個人の価値を尊重する態度を養うことができるよう留意した（第2号）。</p> <p>日本人の倫理意識として定着した義理と人情の観念を学ぶことにより、道徳心を培うことができるよう配慮した（第1号）。</p> <p>身分制社会における庶民の日常生活に根ざした思想や勤労倫理の特質について考察させることにより、勤労を重んじる態度や、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第2号・第5号）。</p> <p>明治初期の福沢諭吉の思想や自由・民権の思想を学ぶことにより、自主及び自律の精神を養い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第2号・第3号）。</p> <p>近代的な自我の確立をめざした夏目漱石や森鷗外の思想を学ぶことにより、個人の価値を尊重して、自主及び自律の精神を養うことができるよう留意した（第2号）。</p> <p>明治・大正期の女性の解放をめざす動きや、大正デモクラシーについて丁寧に記述することにより、男女の平等を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>鎮守の森の生態系の保護を主張した南方熊楠の思想を学ぶことにより、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した（第4号）。</p> <p>近代社会を支える主体的な個の確立を主張した丸山真男の思想を学ぶことにより、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p>	<p>p. 142～145</p> <p>p. 146～157</p> <p>p. 158～159</p> <p>p. 160～165</p> <p>p. 165</p> <p>p. 168～169</p> <p>p. 168～171</p> <p>p. 176～177</p> <p>p. 180～181</p> <p>p. 182、187</p> <p>p. 191</p> <p>p. 192</p>
<p>第2編 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理</p>	<p>生命の問題におけるさまざまな倫理的課題を追究するなかで、個人の価値や生命を尊ぶ態度を養うことができるよう留意した（第2号・第4号）。</p> <p>環境の問題におけるさまざまな倫理的課題を追究するなかで、人間の生命が自然の生態系のなかで他の生命との相互依存関係において維持されていることや、将来世代に対して責任が問われていることを認識させ、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第4号）。</p> <p>科学技術の活用におけるさまざまな倫理的課題を探究するなかで、科学技術に関わる者の公平性・社会的責任、そして情報倫理などの倫理性の確保について、真理を求める態度を養い、道徳心を培</p>	<p>p. 198～203</p> <p>p. 204～209</p> <p>p. 210～213</p>

	うことができるよう配慮した（第1号）。	
第2章 社会と文化にか かわる諸課題と 倫理	<p>すべての人が自分らしく安心して生きていくためには、ソーシャル・インクルージョンの実現が求められることを学ぶことにより、個人の価値を尊重する態度と、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第2号・第3号）。</p> <p>ワーク・ライフ・バランスや働き方改革について取り扱い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるよう留意した。また、男女が協力して社会を支えることの大切さについて取り扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫した（第2号・第3号）。</p> <p>地域社会や家族がおかれている状況を理解し、社会的な福祉の充実が求められていることを学ぶことにより、個人の価値を尊重する態度と、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第2号・第3号）。</p> <p>自分たちとは違う他者の宗教や文化を認め、たがいに敬意をもちながら共生していくことの大切さについて丁寧に記述することにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第5号）。</p> <p>持続可能な社会を実現するための国際目標であるSDGsについて学ぶことにより、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫した（第2号・第3号）。</p> <p>国際社会における日本の役割について考察するなかで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第5号）</p>	<p>p. 214～215</p> <p>p. 216～217</p> <p>p. 218～219</p> <p>p. 220～221</p> <p>p. 196～197、 204～205、224 ～225</p> <p>p. 226～227</p>
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
<p>・一般的な教養を高めるために、英語との対比で倫理の用語を学ばせる「倫理に登場する用語」のページを巻頭に設けた。また、本文の見開き左ページの欄外に「名言」「keyword」を設け、先哲の名言や主著、本文内容に関連する情報などを紹介した。</p>		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-81	高等学校	公民科	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183・第一	倫理 183-901	高等学校 改訂版 倫理		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 自ら「考える力」を培うことができる

- ・たんに先哲の思想を知識として理解するのではなく、現代を生きる自分たちの生き方と関連づけて学習できるように配慮した。
- ・学習内容は網羅的にならないよう留意し、本文記述は理解しやすいようにわかりやすさを心がけた。

2. 「考える」ためのさまざまな問いを用意

- ・各項の学習に問題意識をもって取り組むためのリード文、学習のめあてとなる小見出しの問い、学習の手がかりとなる側注の身近な問い、項で学んだことをさらに深める問いなどを設け、つねに問いを意識して学習できるようにした。
- ・問いをもとに、思考力・判断力・表現力や、主体的に学習に取り組む態度を身につけられるようにした。

3. 他者との対話、先哲のとの対話を重視

- ・巻頭に「CLOSE UP 哲学対話とは？」を設け、対話の意味やその重要性をわかりやすく解説し、生徒と先生との間で、あるいは生徒どうしでできる「対話」というコーナーを、本文の各項に設けた。
- ・先哲との対話という意味で積極的に掲載した原典資料に問いを設け、先哲の考えを理解する手がかりを示した。また、側注に「先哲に聞いてみよう」という形の問いを設け、生徒が先哲の立場で考えをまとめられるようにした。

4. 「考える」ために必要な用語にクローズアップ

- ・巻頭に「CLOSE UP 「倫理のコア概念」とは？」を設け、倫理で扱われる用語の意味の広さや深さを知ることの重要性を示した。また、多くの用語のなかから 17 の用語を選び、第 1 編の各項の冒頭に示し、項ごとに「倫理のコア概念」を意識して学習に取り組めるようにした。
- ・17 のコア概念のうち、「幸福」「愛」「善」「義務」「真理」「正義」「存在」「徳」の 8 つについては、特集ページ「Theme」を設け、これらの用語をめぐって、さまざまな先哲がどのような主張をしているのかが対比できるようにした。

5. 興味・関心をもって倫理学習に取り組める

- ・先哲の略伝を豊富に取り入れて、思想の背景となる生き方などを紹介することにより、多面的に思想を理解できるようにした。
- ・各宗教やルネサンスなどをビジュアルに扱った「VIEW」、西洋思想の流れや SDGs などを扱った「CLOSE UP」という特集ページを用意した。
- ・本文内容に関連する読み物の「COLUMN」や、先哲のことばを紹介する「名言」、先哲の主著などを解説した「keyword」を設け、倫理を身近に感じられるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第 1 編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方			
第 1 章 人間の心と自己形成	A-(1)		
1 青年期の課題と自己形成		p. 8~21	3

第2章 人間の存在や価値と宗教			
1 ギリシアの思想	A-(1)	p. 22~37	4
2 ユダヤ教徒キリスト教		p. 38~47	4
3 イスラーム		p. 48~51	1
4 仏教		p. 52~59	3
5 中国の思想	A-(1)	p. 60~69	4
6 宗教や芸術		p. 70~71	1
第3章 人間のあり方と社会			
1 人間の尊厳	A-(1)	p. 74~81	1
2 科学革命の時代と自然観		p. 82~87	2
3 自由で平等な社会の実現		p. 88~107	5
4 人間性の回復と主体性の確立		p. 108~119	4
第4章 現代の人間と社会をとらえる思想			
1 現代の思想と人間像	A-(1)	p. 120~137	4
2 思想に裏打ちされた生き方		p. 138~141	1
第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚			
1 日本固有の思想	A-(2)	p. 142~145	1
2 外来思想の受容		p. 146~165	5
3 町人意識のめざめと庶民思想		p. 166~171	2
4 西洋思想との出会い		p. 172~192	5
第2編 現代の諸課題と倫理			
第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理			
1 生命の問題と倫理的課題	B-(1)	p. 198~203	3
2 地球環境の問題と倫理的課題		p. 204~209	3
3 科学技術の進展と倫理的課題		p. 210~213	2
第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理			
1 福祉の向上と倫理的課題	B-(2)	p. 214~219	3
2 文化と宗教の影響と倫理的課題		p. 220~223	2
3 国際平和と倫理的課題		p. 224~227	2
		計	65